

事業活動と環境を両立する環境経営を推進し、 持続可能な社会の実現に貢献します。



九州電力株式会社 代表取締役社長 瓜生 道明

ごあいさつ

当社グループは、「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九州電力の思い」のもと、お客さまに電力・エネルギーを安定してお届けすることを使命に、企業活動を行っています。

2015年には、「九州電力グループ中期経営方針」(2015～19年度)を策定し、「日本一のエネルギーサービスを提供する企業グループ」を目標に、九州域内・域外でのエネルギーサービス事業、海外事業、再生可能エネルギー事業などに積極的に取り組んでいます。

これらの企業活動を支える基盤として、「CSR経営の徹底」を中期経営方針の重点的な取組みに掲げており、環境面では、環境にやさしい企業グループを目指し、事業活動と環境を両立する環境経営を推進しています。

九州電力の思い

ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」
そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。
それが、私たち九州電力の思いです。

この思いの実現に向けて、私たちは次の4つに挑戦しつづけます。

- 1.地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと
- 2.「なるほど」と実感していただくために
- 3.九州とともに。そしてアジア、世界へ
- 4.語り合う中から、答えを見出し、行動を



■ 2030年に向けて温室効果ガスの削減に努めます

2020年以降の温室効果ガス削減のための新たな国際枠組みである「パリ協定」が2016年11月に発効しました。当社は、「電気事業低炭素社会協議会(2016年2月設立)」の一員として、需給両面から温室効果ガスの排出抑制に着実に取り組むことにより、2030年における電気事業全体や日本の目標達成に貢献していく所存です。

具体的には、原子力については、エネルギーセキュリティ面や経済性に加え、地球温暖化対策面からも優れた電源であることから、川内原子力1、2号機の安定運転に努めるとともに、玄海原子力3、4号機の早期再稼働に安全の確保を大前提に取り組んでまいります。

火力については、CO₂排出抑制の観点から発電効率の維持・向上に取り組んでおり、2016年6月には、世界最高水準の発電効率を有する新大分発電所3号系列第4軸が営業運転を開始しました。また、再生可能エネルギーについては、2016年3月に、世界最大級の蓄電システムを備えた豊前蓄電池変電所の運用を開始するなど、再生可能エネルギーをバランスよく最大限受け入れるための設備対策にも取り組んでいます。

■ 地域と協働した環境活動の充実に努めます

当社は、地域の皆さまの期待に応え、地域の課題解決に貢献する地域・社会共生活動を更に充実させるため、「環境活動」と「次世代育成支援活動」を行う「一般財団法人 九電みらい財団」を2016年5月に設立しました。本財団では、これまで長年に亘り地域の皆さま方と取り組み、ラムサール条約にも登録された大分県くじゅう坊ガツル湿原での環境保全活動や、当社の水源かん養林を活用した環境教育を充実させていくとともに、地域の諸団体の皆さまが実施する次世代育成活動に対し助成を行っています。

また、九州各地においても、子どもたちの環境を大切にする心を育むため、森の中で「学ぶ」、「守る」、「楽しむ」を体験できる「Play Forest」を開催するなど、将来を担う次世代への環境教育にも取り組んでいます。

■ 環境への取り組みに対する皆さまの「声」をお聴かせください

当社では、本レポートを毎年発行し、様々な機会を通じて、環境への取り組みに対するステークホルダーの皆さまの声をお聴かせいただいております。お寄せいただいたご意見を反映させることで、環境への取り組みを更に充実させていきたいと考えています。

皆さま、どうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月